

子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実



学習指導要領

主体的・対話的で深い学びを
実現する授業

子供たちが主体的に学ぶ

子供たちが多様な他者と関わりながら学ぶ

子供たちが確かな学力を身に付ける

釧路市が目指す授業



子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

協力し合い

新たな学びや教材との出会い

相手意識



励まし合い

学び合い



キーワード

認め合い

「あい」あふれる授業の展開



教え合い

助け合い

○○愛

話し合い

私(I)は～

相づち
〔なるほど〕等

高め合い

聴き合い

子供たちが主役の授業

<基盤>



- 自分の考えを持つ場がある
- 自分の考えを受け止めてくれる
- 自分の発言に対して意見や質問などの反応がある

安全・安心な心の居場所

■授業を通した学習集団づくりのポイント

- ①自己存在感の感受を促進する
- ②共感的な人間関係を育成する
- ③自己決定の場を提供する
- ④安全・安心な「居場所づくり」に配慮する

子供たちの聴き合う関係が「協働的な学び」の基盤！

■学習規律

- 学習に臨む心構えや約束事
 - ・挨拶や返事
 - ・チャイム着席
 - ・学習用具の準備や整理
 - ・机上の整理
 - ・座る姿勢や聞く姿勢
 - ・声の大きさや速さ、目線に気をつけて話す
 - ・相手意識や目的意識をもって話す
 - ・話している人に身体を向けて聴く
 - ・頷いたり、反応したりしながら聴く
 - ・丁寧に文字を書く習慣
 - ・タブレット端末の使い方 等



■授業の心構え（教師の姿勢）

- 子供たちの人権を尊重し、適切な言動を！
- 明るく、表情豊かに！
- 子供たちのお手本となる言葉遣いを！
- 聞きやすい声の大きさ、速さ、抑揚で！
- わかりやすく、明確な指示・発問を！
- 子供たちの反応を見逃さない立ち位置や動線の工夫を！
- 授業の始業と終業の時刻を守る！
- 見やすい、丁寧な板書（ユニバーサルデザインの視点を意識）を！
- 学習規律（学習に臨む心構えや約束事）については、毅然とした態度で指導を！
- 子供たちを具体的に褒めて認め、励ます言葉がけを！ 等



全教員の共通理解のもと、指導を徹底することが大切！

1. 導入の工夫

①「学びがい・やりがい・知的好奇心」を大切にした学習課題の設定



「問い」や「つぶやき」を引き出す

②自ら考え始めるような見通し



本時のゴールや解決方法をイメージさせる

■学習形態

【個別学習】

- 個別の課題や個人のペースで考えたり、活動したりすることを重視した学習形態
- ・子供たち一人一人の能力や適性、興味・関心等、学習の理解度の差、学習スキルやスタイルなど、様々な違いに応じることができる。



【ペア学習】

- 考えを交流したり、互いの学習状況を確かめたりできる学習形態
- ・隣の席同士等で意見を言い合いながら、考えを広げたり、深めたりする。
- ・新たに他の子とペアにする場面を取り入れると、学習の広がりや深まりがさらに期待できる。



2. 展開の工夫

①個人思考の場

図や絵、グラフや表など、自分の考えを表現できるツールの活用

個に応じた支援（指導の個別化と学習の個性化）

机間指導などを通して子供たち個々の考えを見取ります。

全員の自力解決を求めすぎないようにします。

※子供たちの状況等に応じて、集団思考（ペアトークやグループ活動等）を、事前または個人思考の途中で設定し、自分なりの考えを持たせます。

きっと◇◇になると思うから…

前の時間と同じ方法でやると…

〇〇での勉強の時はこうだったから…

ここまでならわかるけど…



個人思考の場を設定し、自分なりの考えを持たせる

②集団思考の場

思考の活性化を図る工夫（誤答の提示や他者の考えを説明させる等）

話し合いの論点の明確化（「共通点」・「相違点」・「類似点」の整理、根拠の確認等）

複数の考え方を引き出す教師の発問や問い返し、切り返し

目的に応じたグループ編成とふさわしい人数の設定

考えを引き出す問いかけ、自信を持たせる言葉がけ

話し合い・学び合いが展開しやすい学習形態

意図的・計画的な指名

思考の活性化

板書・表現方法の工夫（構造的な板書、ICT機器やホワイトボードの利用等）

タブレット端末の活用



教師は、コーディネーターやファシリテーターに徹します。子供たちに任せて、待つことも大切です。

話し合いに全員が参加しようとする風土

他者の考えと共有させたり、他者の考えを吟味させたりする

〔グループ学習〕



- 子供たちをいくつかの小集団に分けて指導する学習形態
- 興味・関心や習熟の程度、理解の状況の違い等に対応が可能である。
- 話しやすい雰囲気をつくり出し、意見交流が活発になる。

〔一斉学習〕



- 話し合い活動等、集団で思考する場面で活用できる学習形態
- 導入部分で共通の課題を把握したり、終末部分でこれまでの学びを整理しまとめたりする場面で効果的に活用できる。
- 多様な考えの交流により、思考の質が高まる。

3. 終末の工夫

①できた！わかった！と実感できる「まとめ」

本時の学習で「わかったことや大切なこと等」を子供たちに確認させる

本時の学習内容と足跡が整理された板書とノート

どうすれば〇〇でできるようになるかがわかった。

今日の課題は、「どのようにして〇〇するのだろう？」だったから…

適切な学習用語に置き換える

〇〇にするのは、□□が大切だ！

△△のことは、□□と言うんだね。

本時の学習課題に立ち返らせて、学習したことを整理し、子供たちの言葉を紡ぎながら「まとめ」を行います。

本時の学習課題に正対させて、まとめる

②自身の学びの過程や変容を自覚できる「振り返り」

振り返りの視点の提示

- ・何ができたか
- ・どうしたらできたか
- ・生かしたいことは何か 等

振り返りの質を高める工夫

- ・文末表現や書き出しの提示
- ・本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件設定
- ・参考になった友達の考えの確認
- ・次時の学習内容の提示 等

最初は〇〇になると考えていたけど、◇◇でやると□□になることがわかった。

次の時間は、◇◇を使ってやってみよう。

時間を保障するためにテンポよく授業を進めます。

今日の学習は、◎◎に生かせようと思った。

はじめはできなかったけど、☆☆さんの意見を聞いて、できるようになった。

「まとめ・振り返り」から逆算して授業を構想し、学習活動を精選します。

学習内容のまとめりごとで、振り返りを行う

■机間指導

〔見る〕（つらむ）

- クラス全体の学習状況をつかみます。
- 指示や発問を理解して学習を進めているか。
- 学習に集中しているか。（学びに向かう姿勢）

〔診る〕（分析・判断する）

- 子供たちの活動の様子から展開を調整します。
- 時間はどれくらいかかりそうか。（活動の修正や変更）
- だれを指名したら効果的か。（順番、内容、論点などの整理）

〔観る〕（観察する）

- 一人一人の様子を観察・評価します。（指導と評価の一体化）
- 活動が停滞したり、時間が余っていたりする様子はないか。
- どんなことに困っているのか。
- どんな頑張りが見られるか。

〔みる〕（指導・支援する）

- 支援の必要な子供たちにアプローチします。
- 必要な支援は何か。（課題設定の調整、個別指導、学び合いの声掛けなど）